



新潟地方本部 第14回定期大会



とき: 2025年7月30日(水)
12時30分 開会
ところ: 万代市民会館
6階 多目的ホール

対策を講じたにも関わらず、上越線の越後川口駅・大沢駅で列車の起動不能が繰り返して発生したことに對する認識を質す、予想を超える降雪により消雪設備の能力を超えたこと、及びホーム形状が原因と考えられるとして、引き続き、必要な対策を検討していくとの回答を示しました。

支社側は、休勤で対応し

また大沢駅については線間ブールが設置されていたが、想定を超える降雪であり、改修工事の予算が通っていることから、出来る限り運行を確保していく考えだとしました。

13時30分より、新潟地方本部事務所において、2024年度一般会計の会計監査を実施しました。



申12号団体交渉

2024年度冬期検証に関する申し入れ 昨冬期の振り返りを通じ 今冬期に向けて課題が明確に

新潟地本は6月27日、申12号・2024年度冬期検証に関する申し入れの団体交渉を行いました。

次期冬期における安全・安定輸送の確保にむけて課題を鮮明にするために、労使で議論を行いました。

架線凍結対策は引き続き検討が必要

2024年度冬期の取り組みにおける成果を質すと支社側は、運転計画の早期判断と前広な情報提供等に取り組み、444M対策が生かされた結果、例年を上回る積雪の中でも長時間にわたる駅間停止を発生させなかった事が最大の成果だとしました。

課題について質すと、磐越西線の倒木や上越線で雪を抱えての停車が多く発生した事と、電報打電ま

無に状況であり、引き続き

検討していきたいとの考えを示しました。

ウエザーニュースの精度を高めていきたいとする支社側に対し組合側は、凍結が予想できるので事前に広く知らせてもらいたいと要望し、支社側は勉強していくと応えました。

試験的に整備したE129系カッターパンの有効性について、架線凍結に

想定を超える降積雪時の対応に課題

駅構内及び駅間における除雪体制に対する評価を質すと支社側は、機械除雪をパターン除雪で有効的に実施できた一方で、JPCZによる集中的な降雪など想定を超える積雪には対応できなかったと回答しました。

対策を講じたにも関わらず、上越線の越後川口駅・大沢駅で列車の起動不能が繰り返して発生したことに對する認識を質す、

予想を超える降雪により消雪設備の能力を超えたこと、及びホーム形状が原因と考えられるとして、引き続き、必要な対策を検討していくとの回答を示しました。

支社側は、休勤で対応し

また大沢駅については線間ブールが設置されていたが、想定を超える降雪であり、改修工事の予算が通っていることから、出来る限り運行を確保していく考えだとしました。

13時30分より、新潟地方本部事務所において、2024年度一般会計の会計監査を実施しました。

監査の結果、不正の事実はなく会計規則に準じて処理されており、帳票類もよく整理されているとして、指摘事項は特にありませんでした。

今後大切な組合費を厳正に管理・執行していきます。

置箇所変更、村上駅の防風柵設置など、この間の対策により発生は少なくなっているとの評価を示しました。



また大沢駅については線間ブールが設置されていたが、想定を超える降雪であり、改修工事の予算が通っていることから、出来る限り運行を確保していく考えだとしました。

13時30分より、新潟地方本部事務所において、2024年度一般会計の会計監査を実施しました。

監査の結果、不正の事実はなく会計規則に準じて処理されており、帳票類もよく整理されているとして、指摘事項は特にありませんでした。

支社側は、休勤で対応し

また大沢駅については線間ブールが設置されていたが、想定を超える降雪であり、改修工事の予算が通っていることから、出来る限り運行を確保していく考えだとしました。

13時30分より、新潟地方本部事務所において、2024年度一般会計の会計監査を実施しました。

監査の結果、不正の事実はなく会計規則に準じて処理されており、帳票類もよく整理されているとして、指摘事項は特にありませんでした。

2024年度一般会計 下期会計監査を終了

新潟地本は6月30日13時30分より、新潟地方本部事務所において、2024年度一般会計の会計監査を実施しました。

対象となった会計期間は下半期分の2024年11月1日より2025年4月30日までです。

監査の結果、不正の事実はなく会計規則に準じて処理されており、帳票類もよく整理されているとして、指摘事項は特にありませんでした。

今後大切な組合費を厳正に管理・執行していきます。

置箇所変更、村上駅の防風柵設置など、この間の対策により発生は少なくなっているとの評価を示しました。

制輪子凍結の発生状況を質すと、石打駅庫内でパン上げ留置を行なった4編成のうち1編成が凍結した事象の1件であったとしました。

大学入試の当日に発生させてしまったとする支社側に対し、検査社員は配置していたのを問うと、配置していなかったが今回の事象を受けて検討していきたいとしました。

休養時間確保への考慮を求めました。

支社側は、最終的に決定するのは現場であるが、休養の観点からも検討していきたいとしました。

E129系電車の制輪子凍結防止策の効果を質すと、柏崎・石打駅での起動確認、石打駅でのパン上げ留置、吉田・新津駅の留

置箇所変更、村上駅の防風柵設置など、この間の対策により発生は少なくなっているとの評価を示しました。

制輪子凍結の発生状況を質すと、石打駅庫内でパン上げ留置を行なった4編成のうち1編成が凍結した事象の1件であったとしました。

大学入試の当日に発生させてしまったとする支社側に対し、検査社員は配置していたのを問うと、配置していなかったが今回の事象を受けて検討していきたいとしました。